

～地域でつくる『シュウ活』～

横浜市戸塚区
株式会社ツクイ
エリアサービスコーディネーター 菊池 友香

1 はじめに

シュウ活の『シュウ』には“集”と“衆”の意味があります。

高齢者の孤独死、近所付き合いも薄れお互いに無関心な時代などが日々聞かれる中で「それでもやっぱり住み慣れた地域でいつまでの生活したい！」これは誰もが思う事です。

しかし「そういえば最近あの人見ないわね？」

「町内会館で何かあるみたいだけど歩いていけないなあ・・・」

「地域ケアプラザまで相談に行くにはちょっと遠い」

「身体の事は気になるけど病院行くほどじゃないのよね・・・」など地域で安心して暮らすにはまだまだ多くの課題があります。

住み慣れた地域で自立した日常生活が送れる。その為には、私たちは何をすれば良いのか？

「介護の施設は利用していないと相談できないと思った」

「介護施設という事は知っているけど挨拶程度まで・・・」

こんな地域の声から、まずは地域と地域の施設を結ぶ仕組みを作ろうと、昨年より「地域交流会」をスタートさせました。

地域にある多くの施設＝資源が、企業の垣根を超えて、しっかりと手を結べば、地域の人達が“衆”となり、さらに地域の資源が“集”まる。そんな事例をご紹介します。

2 事例や取組の紹介

現在、戸塚区の東俣野町・影取町地域で行われている地域交流会（「げんきUP交流会」）についてご紹介させていただきます。

この交流会の主催は町内会長です。これは地域主体で活動する上で重要なポイントとなります。

施設は企画・開催・人の確保・場所の提供を行います。主体的に地域に声かけをしていただくのは町内会です。

町内会長を主催とすることで地域住民の意識や民生委員・地域ケアプラザも活動しやすく、また地域の情報交換もしやすくなります。

この交流会には毎回、介護予防を意識した専門職種の実践講座や家でもできる体操、健康・お薬・介護・施設・歯の相談コーナーを設け、個別に相談もできるようになっています。

健康コーナーでは地域の医師や訪問看護の看護師が対応、またお薬・介護などについては各施設の専門スタッフが担当し、相談にのります。

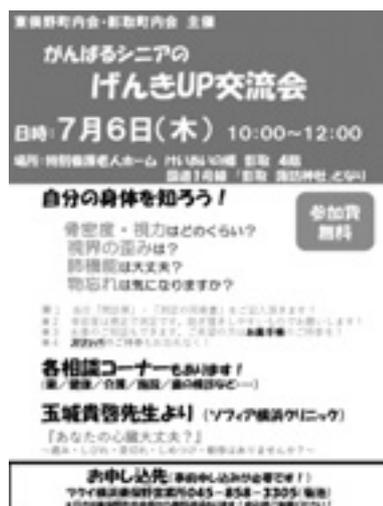
第一回目（平成28年7月14日）は介護：6社／医療：2社で参加者は40名でしたが、第三回目（平成29年7月6日）では介護：10社／医療：6社、参加者数は80名となりました。

回数を重ねるごとに近隣の介護施設へ直接相談がくるようになり、気軽に声を掛けて頂ける関係性ができました。

【1回目】平成28年7月14日 東俣野町内会館にて



【3回目】平成29年7月6日 特別養護老人ホーム けいあいの郷 影取にて



開催後は、アンケート結果を踏まえ、関係者が反省会を行い、次につなげる情報交換を行ないます。

3回の開催を終え、地域に新たな変化がありました。

- ①さらに協力施設が増えた。
- ②2回／年の開催から毎月1回の開催となった。
- ③これまで一部の施設が主体的に動き開催していたが、各施設が月毎に当番となり主体的に開催する事となった。

その他、この会をきっかけに、地域のサロンスペースとして開放された介護施設や、施設で活動して頂けるボランティアさんも増えました。

少しずつですが“顔の見える関係性”が始まっています。

家族会へのお誘いも頂き、これをきっかけに地域の皆様と作る地域限定（中学校区）の「認知症ガイドブック」作成も進んでおります。

3 考察

『シユウ活』を行う事によって地域の人たちが“衆“まり、その結果、地域の人たちが地域の資源を“集”め、医療・介護を結びつけてくれたと感じております。

「地域包括ケアシステム」の「医療・介護の連携」を考えた時、私達施設側はつい専門的に考えてしまいがちで、ご利用されているお客様を通じた情報共有等で満足していたところがあります。しかしご利用されていない人たちも地域包括システムの大切な資源である事。そして地域の人たちをが“衆”まる事が、私達施設側が求める「医療と介護の連携」を進める近道、つまり大きな力になるのだという事はわかりました。

4 おわりに

今回ご紹介させて頂いた交流会を通して、地域の皆様の健康に対する意識の高さにも驚きました。この意識にどれだけ私たちが寄り添い、支援できるか・・・。

この交流会を地域づくりだけでなく、住み慣れた地域で自分らしい日常生活が送れるよう、地域の課題を得る場、そして解決できる情報発信の場として、継続的していきたいと思えます。